

令和元年11月26日

輪之内中学校 保護者 様

輪之内町立輪之内中学校  
校長 三輪 弘文

「平成31年度 全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえた学力向上の取組について（お知らせ）

保護者の皆様におかれましては、平素より本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。  
さて、本校では、生徒一人一人が学習内容の確実な定着を図るとともに、学習したことを活用し仲間と協働して課題解決に取り組むことができる授業をつくろうと、指導方法の工夫改善に取り組んでおります。この度、その一環として本調査の結果分析を行い、改善の方向を取りまとめましたので以下にお知らせします。引き続き、本校の学力向上の取組に御支援いただきますようお願い申し上げます。

なお、本調査が国語、数学、英語に限られていることやテストだけでは把握することが難しい学力もあることなど、調査結果から分かる学力の実態は限定的であることについて御承知願います。

## 1 調査の内容について（対象学年：第3学年、実施期日：平成31年4月18日）

教科に関する調査	知識 技能 活用	国語 数学 英語	・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい「知識・技能」など ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など
生活習慣や学習環境に関する質問紙調査			・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

## 2 教科に関する調査について

### （1）結果分析

#### 概要

- 国語、数学、英語の平均正答率は、いずれも県平均、全国平均を上回る結果であった。  
英語（話すこと）の平均正答率は、全国平均を大きく上回る結果であった。
- 国語、数学、英語のいずれにおいても無回答率が低く、県及び全国平均を下回っている。

#### 国語

- 「話し合いの話題や方向を捉える力」や「相手に分かりやすく伝わる表現について理解する力」の正答率は高く、県及び全国平均を大きく上回った。
- ▼「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ力」や「伝えたい場所について、根拠を明確にして書く力」を問う、従来の『活用』に関する問題の正答率は、県及び全国平均を下回った。

#### 数学

- 「簡単な連立二元一次方程式を解く力」や「簡単な場合について確立を求める力」、「根拠となっている三角形の合同条件を理解する力」を問う問題の正答率は高く、県及び全国平均を上回った。
- ▼「問題解決の方法を数学的に説明する力」や「問題解決の方法を数学的に説明する力」を問う問題の正答率は県及び全国平均を上回っているがやや低い。

#### 英語

（聞くこと・読むこと・書くこと）

- 「まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解する力」や「簡単な文章で書かれたものの内容を正確に読み取る力」「2人称単数現在時制の疑問文を正確に書く力」を問う問題の正答率は高く、県及び全国平均を大きく上回った。
- ▼「文と文とのつながりに注意してまとまりのある文章を書く力」の正答率は低く、県及び全国平均を下回った。

（話すこと）

- 「与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話す力」を問う問題の正答率は高く、全国平均を大きく上回っている。
- ▼「基本的な現在進行形の文法を理解して応答する力」を問う問題の正答率は低く、全国平均を下回った。

## (2) 指導改善のポイント

①各教科の授業において、①毎時間の学習内容を正しく理解する ②学習している内容と既習内容との関連を理解する ③実験や作業、活動等の結果や資料（図表、グラフ、映像等）をもとに考察する ④課題解決の方法や結果を分かりやすく話したり、書いたりして説明する

## (3) 具体的な指導改善の手立てについて

### 学習規律の確立

- ・生徒会の学習委員会や教科係、学級の学習班が中心となって、授業姿勢の向上に取り組んだり、話し合いを活発なものにしようとして働きかけたりするなど、生徒自らが授業の向上に主体的に取り組めるようにする。

### 授業改善の充実

- ◆学び合いができる学習集団づくり
  - ・「傾聴」（最後まで黙って聞き切る。自分の考えと聞き比べる。意見の異同を聞き分ける。話の要点を聞きまとめる。）の徹底に引き続き取り組む。
  - ・仲間の考えや発想、課題解決の方法のよい点を認め合い、自分に取り入れることができるようにする。
- ◆仲間と協働して課題追究に取り組む学習活動の工夫
  - ・授業で自分やペアの考えを説明したり、交流してまとめたりする活動を位置付けたり、ICT（プロジェクト、タブレット等）を活用したりするなどして、学習活動を工夫改善する。
- ◆学習内容が身に付いたと実感できる「終末」の工夫
  - ・学習したことを復習したり、まとめたりするなどして学習内容の定着を図る。
  - ・学習内容の発展的な学習、他教科等の学習や実生活等での活用などを助言する。

## (4) 家庭学習の徹底

- ・「ひとりだち」（生活記録）と「自主学習」を毎日提出できるように指導する。
- ・学習内容に応じて、家庭学習の方法を指導・助言する。
- ・「誤答処理ノート」を活用し、定期テスト等の理解できていなかった部分を確実に身に付けるようにする。
- ・各教科のワーク（副教材）は答え合わせまで行うよう指導し、繰り返し復習して学習内容の定着を図る。

## 3 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査について

### (1) 調査結果について（抜粋：「よくあてはまる」と回答した生徒の割合）

質問項目	本校 (%)	岐阜県 (%)	全国 (%)
自分にはよいところがあると思う。	38.1	30.4	29.0
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	39.2	37.0	31.3
将来の夢や目標を持っている。	58.8	43.3	44.9
学校の規則を守っている。	63.9	70.1	66.8
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	89.7	78.2	78.3
人の役に立つ人間になりたいと思う。	82.5	72.9	71.1
朝食を毎日食べている。	89.7	83.9	82.3
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	19.6	17.2	14.9
家の人（兄弟姉妹除く）と学校での出来事について話をする。	53.6	47.3	46.4
今住んでいる地域の行事に参加している。	52.6	33.1	21.0
地域や社会をよくするために何をすべきか考える。	20.6	12.8	11.5
読書は好き。	32.0	37.9	38.9
新聞を読んでいる。	3.1	6.1	4.1

### (2) 結果分析と今後の取組について

- ・「自分にはよいところがあると思う」については、「よくあてはまる」と回答した生徒が38.1%であり、県30.4%、全国29.0%を大きく上回っていた。自信をもって言い切れる生徒が増えたことは、自己肯定感を高める学校での取組、家庭での継続した認めや励ましなどの成果として認められる。
- ・「地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」は、県及び全国平均を大きく上回っており、防災士の学習を通して地域の問題に関心をもち、自分ができることを考えられるようになりつつあると考えられる。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」については、人権教育の充実やかがやき見つけ等を通して、ちがいを認め合い、分かり合って協働できる人間関係づくりを進めてきた成果が出ている。
- ・新聞を読むことや読書の回答から、読書の時間の充実、図書館利用の推進、国語、社会等での新聞記事の活用など、学習内容の実生活での活用や生涯にわたって学び続ける力を身につけさせる必要があると考える。